

菊池市かわまちづくり ～迫間川でむすぶ隈府と玉祥寺～

梅崎 達也

菊池川河川事務所 調査課（〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿 178）

これまでに菊池川流域で行ってきた高瀬地区、山鹿地区の「かわまちづくり」の河川利用の現状と課題などを整理し、菊池市で計画している「かわまちづくり」のコンセプトを踏まえた、河川の利活用、維持管理体制や地域連携などについて発表する。

Key Words:かわまちづくり、地域連携、環境整備、利活用、維持管理

1. はじめに

菊池川は、その源を熊本県阿蘇市深葉（標高 1,041m）に発し、阿蘇外輪山の溪流をあつめて流下し、迫間川、合志川、岩野川等の支川と合流した後、菊池盆地を貫流し狭窄部に入り、玉名平野に出て木葉川及び繁根木川等を合わせ有明海に注ぐ、流域面積 996km²、幹川流路延長 71km を有する熊本県最北端の一級河川である。



図-1 位置図

また、約 2 千年前から続く米作りと現存する豊富な文化遺産が評価され平成 29 年 4 月に菊池川流域全体が日本遺産として登録された。

菊池川河川事務所では河川環境整備事業の一つとして山鹿市山鹿地区、玉名市高瀬地区で“かわまちづくり事業”を行っており、平成 31 年度からは菊池市において

実施しているところである。

“かわまちづくり”とは地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組である。

今回は、過去に取り組んだ事例を踏まえ、現在取り組んでいる“菊池市かわまちづくり”で、どのように河川空間の賑わいを創出するか検討する。

2. かわまちづくり整備後の取組状況

1) 山鹿地区（山鹿市）

河岸及び水辺への連絡通路や階段が整備され、安全な水辺の利用が可能となったことから、現在では、写真-1 のように地元クラブのスポーツ活動、イベント、祭りや体験学習の場などに利用され市及び“菊池川育てねっと”による維持管理が平成 22 年度から行われている。管理団体である“菊池川育てねっと”の参加者は、高齢化が進んでおり新規の参画者が少ないためメンバーの固定化が進み新たな活動があまり行われない状況である。今後、新規参入者を確保するために、PR 活動等の積極的な情報を発信し若い世代に参加してもらう必要があると思われる。



写真－1 山鹿地区（湯ノ瀬川公園）の利用状況

2) 高瀬地区（玉名市）

かわまちづくり事業による舗装、拡幅を含む管理用道路の整備、護岸や高水敷の整備が行われたため、安全に水辺の利用が可能となり、地域主導のイベントや散策等に利用されている。現在は市や菊池川“おおかわの会”により日常的な草刈り等の維持管理が行われており、地域の協力体制の下、継続した維持管理が行われている。

写真－2の場所は昨年、大河ドラマ「いだてん」のロケ地としての利用もあり盛り上がりを見せた。しかし、今後どのように利用するかという計画も未定であり、新規の活動団体の確保等も進んでいないため情報の積極的な発信と地域の活性化が課題となる。



写真－2 高瀬地区でのイベント利用状況

3) 整備箇所の課題について

これらの事例から山鹿市・玉名市のかわまちづくりに共通して、活動団体など地域住民がどのように継続的に利用するかが課題になっている。整備後、しばらくの間は人の入れ替わりなどが少ないため引き続き維持管理やイベント等を行う人や団体も多いが、数年後、現在の活動団体だけでは難しくなる可能性も考えられる。そのため、新規の参画団体を呼び込むためにPR活動や積極的

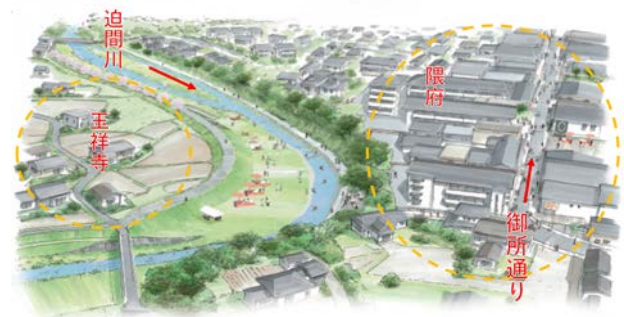
な情報発信を行う必要がある。併せて活動団体や住民の容易な維持管理を促すために、それぞれの役割分担を明確にする必要がある。

3. 課題も踏まえた菊池市でのかわまちづくりの取組み

○菊池市かわまちづくりの方針

かわ（迫間川水辺空間）とまち（御所通り、市民広場）との繋がりを重視し、住民主体のイベントや維持管理を行う。また、国、市、住民それぞれの役割分担を明確にし、整備中及び整備後の段階ごとに課題を抽出し地域コミュニティを創出する整備を実現する。

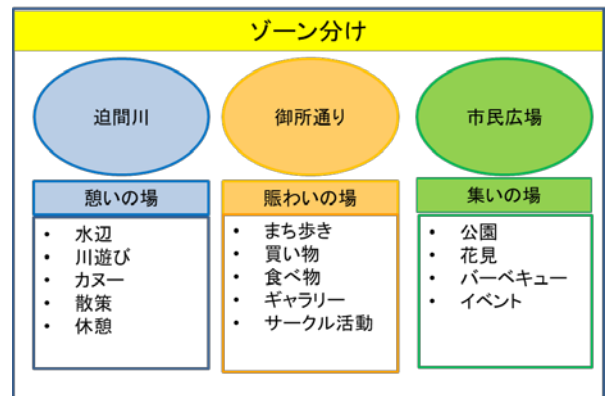
イベントや社会実験を行うなかで、地元の川として親しみを持ってもらい、「かわ」と「まち」を繋げると共に、計画の段階から事前に、将来の維持管理を見据えた役割分担を行う。



図－2 かわまちづくりイメージパース

①かわまちづくりのコンセプト

エリア毎にゾーン区分を行い、3つのゾーンを連携させ、かわまちづくりの整備の方向性を整理する。



図－3 かわまちづくりのコンセプト

- 1) 「迫間川エリア」は、川遊び、カヌー、散策といった憩いの場。
- 2) 「御所通りエリア」は、まち歩き、買い物、食べ物やサークル活動といった賑わいの場。
- 3) 「市民広場エリア」は、花見、バーベキューやイベ

ントといった集いの場。

以上のように、ゾーン分けを行い、各エリアの繋がりを歴史、文化、食などのテーマで結ぶ。また、サインや舗装などで動線を結び、各エリアの繋がりをもたせる整備を行う。

②かわまちづくりワークショップ及び社会実験

「水辺で乾杯」、「菊池川キッズ探検隊」及び「秋のミズベリング」などの社会実験を行い、水辺利用に対する川の魅力を発信し、社会実験により川での利活用の可能性を探った。社会実験に参加した大人から子供までの幅広い層の方から、「参加して良かった」、「また参加したい」などの意見が多く、利用に関する可能性があることが分かった。また、ワークショップを開催し、「スポーツで活用」「花火をしたい」などの多くの意見をいただき、その意見を踏まえた水辺整備の構想図の作成を行った。



写真-3 kawadokoにて子供達との河川学習

③維持管理体制の構築

現在、熊本大学の田中准教授、菊池市地域おこし協力隊の協力により、今後の維持管理の中心となるような運営体制づくりを行っている。また今後、利活用が容易なものにするために市、国がその活動をサポートする体制を考えている。

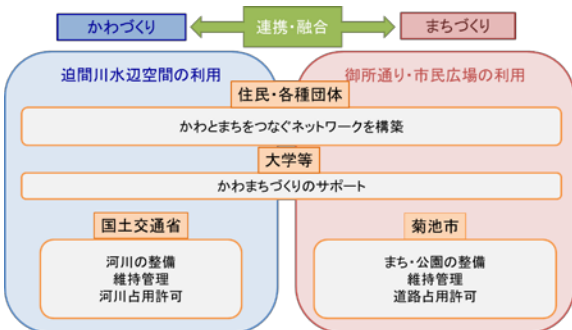


図-4 かわまちづくりのスキーム

④高校生の「かわまちづくり」への参加

菊池高校では「まちづくり部」を設立し、先生方からも「ぜひ維持管理、運営に参加したい」との意見が出ており写真-5のように、7月7日のミズベリング活動で飾るガラス細工に協力していただいた。このように「まちづくり部」として生徒が中心となって、子供たちの川遊びのサポートを行い、また生徒の保護者も子供たちの活動を見守ってサポートする形で地域のネットワーク構築とコミュニティ創出に繋げる。

また、参加した生徒達の目線から地元の良さを広くPRできる学生の高い発信力に期待している。



写真-4 まちづくり部の設立状況



写真-5 「まちづくり部」活動状況

以上のように①～④の取り組みを図-4のスキームに整理した。かわとまちを連携・融合させ一体となった整理が行えるように役割分担を明確にし各段階に応じたフォローアップを図-5のように進めていく。

段階	整備	利活用	検証
計画・設計	<ul style="list-style-type: none"> ◆意見の集約 ◆計画への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域活性化における住民への意識付け ◆住民からの発信力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ワークショップ及び社会実験結果 ◆SNSや動画などを通じた発信状況
工事施工中	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民参加型かわまちづくりの実施 ◆工事見学会・インフラツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆かわまちづくりに対する利用意識の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ◆工事見学会やインフラツーリズムの参加人数 ◆住民の反応(アンケート)
完成後	<ul style="list-style-type: none"> ◆維持管理体制の確立 ◆河川空間のオープン化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆かわとまちをつなぐ新たな取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ◆集客数の増加 ◆イベント等の開催 ◆新たな店舗等の開設

図ー5 かわまちづくりのフォローアップ表

また、工事中は河川を利用できないという理由で何も行わないのではなく、工事中におけるインフラツーリズムを行いながら、計画からものづくりまでを実際に体験してもらおう。これにより、住民に継続利用の意識付けを行い、住民主体で活動してもらい、迫間川の水辺に愛着を持てるようにサポートしていきたい。

4. まとめ

ドライブインシアターやキッチンカーなどの地域住民のニーズを確認し、その利用に配慮したかわとまちをつなぐ整備に関する意見交換を行い、具体的に利用を踏まえた詳細計画を作成していく。また、整備だけでなく、継続的に利活用するために、菊池高校などの利用団体や水辺を利用したい方々の中でリーダー的な人材の発見を行い、持続的に維持管理できるような仕組みづくりを行う。その仕組みづくりを構築するために、以前と同規模の社会実験を行いたいが、現在、新型コロナウイルスの影響があるため、規模を縮小し、十分な感染防止対策を行った上で、昨年実施した「キッズ探検隊」(写真ー6)のような活動で高校生や大学生を中心とした活動を継続し、今後の利活用を行う人材育成や獲得に繋がりたいと考えている。



写真ー6 菊池川キッズ探検隊の活動状況

5. 最後に

菊池市のかわまちづくりだけでなく、山鹿地区や高瀬地区での活動団体が交流し、流域連携を行い、菊池川が賑わいと憩いの場となるように整備だけでなく連携を図っていきたい。